

第 66 巻の広告掲載会社名および商品名

アステラス製薬 (株)		シーメンスヘルスケア (株)	SOMATOM Force
中外製薬 (株)	ゼロータ&アバステン	田辺三菱製薬 (株)	ルパフィン
(株) 大塚製薬工場	ビーフリード		

(ABC 順)

編集委員会

編集委員長：伊豫田 明
 編集委員：赤羽 悟美 弘世 貴久 池田 隆徳
 石井 良和 片桐 由起子 近藤 元就
 三上 哲夫 水野 雅文 中野 裕康
 佐藤 二美 島田 英昭 和田 弘太
 編集顧問：杉山 篤 津熊 久幸

(ABC 順)

編集後記

東邦医学会雑誌第 66 巻 1 号をお届けします。研究者は研究して論文を執筆したら論文を雑誌にて公表する必要がありますが、近頃「ハゲタカ・ジャーナル」についての話が新聞などで目に付くようになってきました。本誌の読者は医学部メディアセンターからの注意喚起もありますので注意しているものと思いますが、簡単にこの場を借りて紹介いたします。

電子メールにより投稿の勧誘などを行い、著者から費用を搾取しようとするものがいわゆる「ハゲタカ・ジャーナル」です。著者が気づいていても投稿の取り下げをさせないなどの不当な扱いを受けることも報道されています。オープンアクセスジャーナルの増加が背景にあります。「ハゲタカ・ジャーナル」は、論文の質が保証されていない事が多く、掲載されても学術的に妥当でないと疑われる怖れがあるとされています。査読のプロセスが不透明なことも報道で目にするところです。皆さんも投稿を呼びかける電子メールを受け取ったことがあるかと思いますが、雑誌名が歴史ある雑誌と一見似ていることもだまされる危険性を高めています。このような雑誌で論文を公開しても、それが業績として評価されるか疑問ですし、むしろ業績に傷がつく怖れもあります。

「ハゲタカ・ジャーナル」に引っかけられないためのガイドラインとして、投稿に際しては Think, Check, Submit の 3 段階をきちんと踏むことが紹介されています (think,

check, submit のキーワードでネット検索をすると出てきます)。それを読んでみると歴史ある雑誌ではないオープンアクセスジャーナルに投稿する際には十分な知識と注意が必要ということがわかります。私自身、「ハゲタカ・ジャーナル」に引っかけってしまった場合の自身の被るマイナスを考えると、投稿時の雑誌の選択時に特にオープンアクセスジャーナルには十分な注意を払う必要があると再認識いたしました。

現在 Toho Journal of Medicine は PMC (PubMed Central) 掲載申請に向けて作業中ですが、「ハゲタカ」に引っかけられないためにも、1 つの有力な投稿の候補雑誌になることを願っています。

(三上哲夫)

東邦医学会雑誌 第 66 巻 第 1 号

平成 31 年 3 月 1 日発行

編集兼 伊豫田 明
 発行人

〒143-8540 東京都大田区大森西 5 丁目 21 番 16 号
 東邦大学医学部本館 3 階

東邦大学医学会

(振替口座 00190-6-95793)

tel. 03-3762-4151 ex. 2465/fax. 03-3762-5077

e-mail: igakukai@med.toho-u.ac.jp

http://tms.med.toho-u.ac.jp

東京都北区西ヶ原 3-46-10

株式会社 杏林舎